

Cisco 2600 および 3600 ルータ シリーズの E3/T3/OC3 ATM インターフェイスによるトラフ ィックシェーピング

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[機能と利点](#)

[サービス クラス](#)

[UBR](#)

[VBR-rt](#)

[VBR-nrt](#)

[CBR](#)

[ABR](#)

[UBR+](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントは、Cisco 2600、3600、4000、および 4500 ルータ シリーズで ATM トラフィックシェーピングを設定する方法について説明しています。ATM トラフィックシェーピングのサポートにおける 4000/4500 ルータ シリーズと 2600/3600 ルータ シリーズとの主な違いは、4000/4500 プラットフォームは 3 種類のサービス クラスだけをサポートするのに対して、2600/3600 ルータ シリーズはすべてのトラフィック タイプをサポートすることです。[その他の違いは、このドキュメントの「機能と利点」のセクションで説明しています。](#)

4000/4500 のルータシリーズでサポートされるサービス クラスは次のとおりです:

- Unspecified Bit Rate (UBR; 未指定ビット レート)
- Non-Real Time Variable Rit Rate (VBR-nrt; 非リアルタイム可変ビット レート)
- Unspecified Bit Rate Plus (UBR+)

Cisco 2600/3600 ルータ シリーズは、UBR、VBR-nrt、および UBR+ の他に、real time Variable Bit Rate (VBR-rt; リアルタイム可変ビット レート)、Constant Bit Rate (CBR; 固定ビット レート)、および Available Bit Rate (ABR; 使用可能ビット レート) をサポートします。

次の表は、ATM トラフィックシェーピングをサポートする 2600/3600 ルータ シリーズの Network Module (NM; ネットワーク モジュール) と、4000/4500 ルータ シリーズの Network Processor Module (NPM; ネットワーク プロセッサ モジュール) を示しています。

2600 および 3600 ルータ シリーズの NM	4000 および 4500 ルータ シリーズの NPM
NM-1A-E3	NP-1A-E3
NM-1A-T3	NP-1A-DS3
NM-1A-OC3	NP-1A-SM
	NP-1A-MM
	NP-1A-SM-LR

バックグラウンド情報に関してはこれらのモジュールが Cisco 2600 および 3600 ルータをどのように使用するか、この資料の[関連情報セクション](#)を参照して下さい。詳細については、「[関連情報](#)」を参照してください。